

Child restraint seat use and the psychosocial factors influencing behaviour

小笠原メリッサ¹⁾ *、千葉敦子¹⁾、川内規会¹⁾

1) 青森県立保健大学

Key Words ①チャイルドシート ②着用促進 ③教育法

I. はじめに

日本では 2000 年に 6 歳以下の幼児が車内でチャイルドシート (CRS) を装着することが法律化されたが、2016 年の国内の CRS 装着率はわずか 64.2%であった。6 歳以下の子ども内、交通事故で死亡、もしくはケガをした幼児の 71%は主に自家用車で移動中に事故に巻き込まれている。既存の研究やデータによると、車の事故による死亡率、またはケガのリスクや程度は CRS の使用により大幅に減少することがわかっているが、日本ではチャイルドシートの使用を増加させるための効果的な教育法について行われた研究は、未だ存在していない。

II. 目的

今後のプログラム開発の一助となることを目的に、本論文では海外で発表された CRS 利用を増加させるための教育法について触れた文献を調査し、それら方法について研究を行った。

III. 研究方法

1. PubMed と CINAHL で検索し、2000 年以降の CRS 装着推進介入プログラムの効果を検証したレビュー 5 編を対象とした。

IV. 結果

現在明らかになっているエビデンスによると、行動の変化を促すためには多面的なコミュニティ活動が最も有効である。日本におけるチャイルドシートの低い着用率を受け、日本国内の研究者は本論文を参考に幼児のためのチャイルドシート着用増加を目的とした効果的な教育法を樹立し、また、それら介入法の実際の効果について評価を進めるべきである。

V. 発表

学会発表

The Educational Effect of a Public Lecture Addressing Child Restraint Seat Use

The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing (Korea)

2016 7 月 2 日～3 日

Assessment of Japan's child restraint seat education and marketing: Time to pave a new road

International Conference on Traffic and Transport Psychology (Australia)

2016 8 月 2 日～5 日

Examining potential intervention methods to increase child restraint seat use in Japan

日本コミュニケーション学会東北支部定例研究会

2016 3 月 11 日

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: m_ogasawara@auhw.ac.jp